

広告

企画・制作 LEXUS NEW TAKUMI PROJECT 実行委員会



スーパーバイザー
小山 薫堂氏

1964年6月23日 熊本県天草市生まれ。日本大学芸術学部放送学科に通う。伝説の深夜番組「カノッサの屈辱」でその名を世間に広め、「進め!電波少年」や「料理の鉄人」など数多くのヒット番組の企画・構成に携わる。「くまモン」の生みの親でもある。



石川良さん(左)とサポートメンバーの下川一哉氏

本プロジェクトは放送作家として多くのヒットを手がけ、くまモンの生みの親でもある小山薫堂氏をプロジェクトのスーパーバイザーに迎え、隈研吾氏(建築家/東京大学教授)、生駒芳子氏(ファッション・ジャーナリスト/アート・プロデューサー)、下川一哉氏(意匠研究所)らをサポートメンバーに2016年発足した。

昨年度は、52人の匠によるプロダクトが誕生した。若き匠の挑戦が刻まれたプロダクトは、ふるさと納税の返礼品への採用や、ロックフェラー家主権のチャリティーイベントへ出品されるなど注目を集め、匠自身もTVやWebメディアへの掲載など目覚ましい活躍を見せている。

2年目となった今年は、全国47都道府県から計51人の若き匠が選出。昨年夏にレクサスギャラリー高輪(東京・港)で行われたキックオフ・セッションを皮切りにプロジェクトがスタートした。

キックオフ・セッションでは、全国から集った匠が

レクサスが日本全国の「匠」のモノづくりを応援

お互いの作品や伝統工芸について熱く語り合うなど交流を深めた。また制作を予定しているプロダクトについて、サポートメンバーたちが匠一人ひとりとディスカッションを行い、アイデアやアドバイスなど意見を交わした。

その後、昨年秋頃にサポートメンバーが実際に匠たちの工房を訪ね、途中経過のプロダクトについて話し合うエリア・コンサルティングを実施。それぞれ制作に向き合う匠たちはサポートメンバーから現状の課題やアイデアの提案など、プロダクト完成に向けた助言とともに激励を受けた。それを踏まえ、匠は自身のアイデアを磨き、プロダクトの試作に取り組んだ。

そして今年1月17日に都内で商談会を開催。匠たちは百貨店・セレクトショップバイヤー・メディア・デザイン関係者などに向けて、半年間かけて制作した自身のプロダクトをプレゼンテーションした。会場に集った200人以上を超え、全国のバイヤーに、プロダクトに込められた秘めた



1月17日のプレゼンテーションにて

ストーリーや地域への思い、コンセプトなどを51人の匠がそれぞれ熱く語った。

バイヤーからは様々な質問が飛び交い、さっそく企画展や展示会への出展や共同開発の話へつながるなど、世界へ羽ばたく足がかりとビジネス拡大のきっかけとなる大きなチャンスを手にした。

商談会の終盤ではヒームスジャパンとのコラボレーション企画「LIFE WITH NEW TAKUMI」が発表された。若き匠が生み出したプロダクトを日常に取り入れた暮らしを紹介するパネルや現物をINTERSECT BY LEXUS TOKYO(東京・港)とBEAMS APAN(同・新宿)で、期間限定で展示。「民芸・工芸を世界標準語にする」というミッションを持つBEAMSとの協働も始まり、同プロジェクトも進化している。

「伝統」を守りながら「新しい」感覚やテクノロジーを吹き込む。「地域」の特性を深めながら、その魅力が「世界」へ広く発信する。

LEXUSが掲げる「二律双生」を、地方創生×モノづくりの視点で実現するプロジェクト。京都府選出の匠の一人、石川良さんの完成した作品を紹介する。

最先端・伝統技術が融合 漆塗りの酒器で「水の姿」を再現

石川 良 京都/漆器製造



完成プロダクト「涛(NAMI)」(上から時計回りに「黒・泡沫」「伏水」「本朱・逆月」)



地下水が豊かな京都・伏見に石川漆工房はある

持ってみると手にしっとり馴染む独特の造形と、漆の持つ重厚な光沢。京都府の匠の一人、漆職人の石川良さんによるユニット・URUS.の酒器「涛(NAMI)」だ。

NAMIは流体シミュレーションなどのデジタルモデリング技術を駆使して「水の姿」を再現。水の質感を表現するのに最も適した漆を使って塗り、磨きを繰り返す。いわば最先端技術と伝統技術の融合によって完成された「未来の酒器」といえる。原材料には安全性の高いポリアミドという樹脂を使用している。不均一の形状の飲み口は、ほかの部位よりもわずかに薄く引き延ばすことで「飲むときにお酒がすっと口に入ってゆくように工夫した」と石川さんという。

部はあえて丸みを付けた。そうすることで実際にお酒を入れると表面に反射した光がきらきらと揺らいで見える。

URUS.は石川さんのほかにプロダクトデザインを手がける田上雅彦さんと、広報を担当する松山幸子さんがメンバーだ。3人の出会いは2015年に遡る。田上さんが3Dプリンターで波紋を忠実に再現した試作品に漆塗り加工をしてもうため石川さんを訪ねたのがきっかけ。出来上がった作品は、日本の工芸を海外発信する活動をしてきた松山さんの目に留まり、完成品を来ニューヨークの展示会に出品したのを機にURUS.は結成された。

命の源である水と、日本で神事にも使われる日本酒。この双方にゆかりのある伏見でNAMIは作られている。

色はオーソドックスな漆色の黒と朱、そして深い地下水の色をイメージした紺の3種類。デザインは無地に加え、下川氏から「器にお酒を入れることで、どんな世界観が表現できるかを考えたほうがいい」というアドバイスを生かし、盃の語源である「逆月(さかづき)」を箔押しで表現したタイプと、地下から湧き上がる水泡を時絵螺鈿で表現したタイプもそろえた。

今後の展開だが、「今回のLEXUS NEW TAKUMI PROJECTをきっかけに、多くの人に漆器のよさをアピールしていきたい」と石川さんは意気込む。



漆の塗りと磨きを繰り返してプロダクトは完成する

漆塗りの酒器で「水の姿」を再現



石川 良
京都/漆器製造

1978年京都生まれ。CM制作会社などを経た後、木地の伝統工芸士である父・石川光治氏とともに木地製作や吹付塗装を得意とする石川漆工房を運営する。ヤマハ発動機のマリネットの漆塗りを手がける。京都漆器青年会主催の公募展るおい漆展で大賞、府知事賞などを受賞。

